

東京新聞のこちら特報部「へこたれない人々」の取材で、母校の慈恵医大と裁判で争ってきた経過を話し、記事になりました。息子が医療過誤にあってから今日までの経緯をとおして、いまの医療現場の問題を訴えました。

(第3種郵便物認可)

東

「医療現場で事故が起きると、医師は保身のために情報を隠し、改ざんし、ウソもつく」ことを知ってはいた。しかし、あそこまで平気でウソをつくとは…」とため息をついた。

舞台は母校、東京慈恵会医科大学の付属病院。四年前、大学生の長男(三)が当時が手足のしびれを訴えた。脳の血管が炎症を起す「血管炎」が疑われた。血管にカテーテルを挿入し、造影剤を注入する「脳血管造影」の検査を受けた。検査中にけいれんを起したが、検査は続けられた。長男には、言語障害や右半身にまひが残った。身体障害者二級の認

医療事故真実求め

母校相手に闘った医師 富家 孝さん(63)



医療現場の現状について話す富家孝さん(都内で)

ふけ・たかし 1947年、大阪市生まれ。72年、東京慈恵会医科大学卒業。病院経営を経て、日本女子体育大学助教授、早稲田大学講師などを歴任。格闘技通で新日本プロレスのリングドクターを務める。学生相撲の元選手で、現在は慈恵医大相撲部の総監督。内科医の傍ら、ジャーナリストとして医療問題に取り組んでいる。著書に「医者しか知らない危険な話」など。

検査受けた長男、障害残る

数々の疑問が消えな... 裁判に極めて異例な... 富家は「何でそんなウ... った。母校から納得でき... 病院側は「検査前にリソをつくん... と怒りに

った。私は医師だが、科が専門で、そこま... 知らなかった。説明が... れば検査に合意しな... た」

病院側は「懇願」... いてはその後、法廷... 「勘違いだった」と... した。だが「検査は... 診断に必要」「脳血... 影には五百件に一件... 割合で合併症のリス... あり、それは説明し... との一般論を繰り返... た。

富家は大阪市で代... く医家の十六代目。... に医師は三十三人... 医療が抱える問題... 分かっている。その... を生かして、積極... 報発信する医療ジャ... リストの顔も持つ。

さらには、医療事... 相談にも応じ、患... 院や医師を紹介す... ンサルタント業も... いわば「病院選... 口」。長男の検査... を母校に決めたもの、

